会　議　録

会　議　名	令和６年度第２回　辰野町図書館協議会
開 催 日 時	令和６年 12 月 23 日（月）午前　9 時 00 分～9 時 45 分
場　　所	辰野町立辰野図書館２階会議室
出　席　者	委員６名中　６名（事務局：宮澤教育長、福島館長、辰野図書館職員：千田・山村）
会 議 次 第	進行　課長 １．開会のことば ２．教育長あいさつ ３．協議事項（進行　会長） 　１）令和６年度図書館利用状況 　２）令和６年度図書館事業等報告 　３）令和７年度予算･事業計画 　４）その他 ４．閉会のことば
会 議 結 果	３．協議事項（進行　会長） 　１）令和６年度図書館利用状況 　２）令和６年度図書館事業等報告 　３）令和７年度予算･事業計画 　　辰野図書館職員から一括説明し、質疑を経てご了承いただく。 　４）その他
発　言　者	発言の内容
教　育　長	おはようございます。 学校では学級閉鎖となったクラスがある。明日は終業式だが仕方がない。お互い生身の体なので、気を付けていただきたい。 12 月の定例議会が無事終わった。そのなかで議員さんから「デジとしょ信州」に関する質問があった。「デジとしょ信州」に関して今までに協議会でも説明があったが、文字の拡大・縮小ができる、コンテンツをみんなで共有できる、外国の本などはネイティブの発音が聴けるなど。積極的に小中学校で利用するように、という質問があった。今子どもたちは、タブレットを一人一台持ち、授業で自由に使っているという話を紹介させていただきながら、あくまでもタブレットは文房具の一つで万能ではない。紙媒体は必要で、今の小中学生は自分で自由に必要な情報を取り出し、友達とそれを使って情報共有、あるいは情報交換をできている。そんな話をした。 一方で最近、デジタルを早い段階から導入した国の状況が伝えられるようになった。例えばスウェーデン。教科書をすべてデジタル化して、実際に学校で子どもたちの学びに使ってみた。しかし、紙の教科書に比べると定着力がとても低いという結果が出たので、デジタル教科書をやめて、紙に戻そうという動きがあるそう。まだ日本では大きく報道されていないが、子どもたちにとっての学びを考えると、今日本はデジタル化に動いているが、一歩立ち止まって改めて紙の良さ・温度を見直してみるのが大事なのでは、と最近感じている。委員の皆さんの意見も聞かせてい

	ただければ。 　それでは第二回図書館協議会。よろしくお願いします。
会　　長	改めまして、おはようございます。 　今日はここはとても爽やかな天気だが、北は大雪ということで大変な冬になっていくかと思う。限られた時間のなかで大変恐縮ですが、最近感じていることを話したい。 　ただいま、教育長から大変重要な話題の話があった。皆さんご存じのように、今学校現場にはどんどん電子機器が導入され、子どもたちはすぐに対応し、現場の先生方は追いつかないような状況。改めて紙の教科書に戻すべきという意見も出ている。それに関連し、図書館の利用にもつながってくるような問題がある。 　今朝 8:45 頃。ここに向かってくるとき、子どもが 2 人、非常にのんびりと学校に向かっている姿があった。それが嫌々行く感じではなく、とても楽しそうに歩いていた。たとえ多少遅刻しても、学校へ行くのが楽しみな気持ちで子どもたちが通っているのは嬉しく思う。一方で、皆さんご存じのように、不登校の子どもたちが過去最高の数を記録した。それだけでなく、休職をしている先生方の数も増えてしまっている。そんな大きな問題が教育現場にはある。 　次に大学生の話。皆さんご存じのように、103 万円の壁の問題。その中に、アルバイトをしている学生が 103 万円の壁があることにより、それ以上働けない状況。たしかに事実としてあると思うが、少し考えてみると、学生がそんなに働かなければ学校生活を送れない、それが大きな問題だと思う。大学生の学費無料という話もあるが、もう少し切り口を変えて、生活費が多くかかる都会に大学生が集中していることが大学生の貧困につながっている。家賃などとにかく生活費がかかり、本を買うお金もない。 　いろんな問題が学校教育、先生方、大学生にある。こういう問題について、協議会として何らかの形で今の教育に関わり、そんな図書館でありたいと思う。
事　務　局	協議事項一括説明
委　員　A	先日たつの新聞に、生徒が読んだ本についてプレゼンの形で紹介をしているという記事が載っていた。読むばかりでなく、それを友達に広げていくのは素晴らしいことだと思った。やはり感動すると伝えたいという気持ちになるだろうし、いろんな世界が広がる。人に気持ちを伝えることが、これからは余計に大事になってくると思う。そういう紙面を見て、こういう取り組みが学校の中で行われていると分かり良かった。このように輪が広がっていくと良いと嬉しく思った。
委　員　B	以前辰野町でビブリオバトルがあった。過去に辰野西小でビブリオバトルの経験があるが、学校司書という立場で大きなものを動かすことが本当に難しい。教員の中でできればいいが、なかなか難しい。どうして実現できていたかというと、その時の校長先生が協力的だった。授業の中でビブリオバトルを見せるのは難しかったが、校長先生や他の先生方の力があり、休み時間に見せることができた。1～6 年生まで多くの生徒が集まり、大人の本を紹介したが「大きくなったら借りたい・読みたい」という声があった。見せたことにより、自分たちもやってみたいという気持ちになり、辰野町のビブリオバトルに送り出すことができた。 　ビブリオバトルは本の紹介だけでなく、紹介する人の人となりも出てくる。ある本を読んだら、読解力について、やはりインプットするだけでなくアウトプットする、人に話すことでものすごくスキルが上がる。最終的に好きな本を読み、それを人に伝えることが一番良いと書かれていた。 　11 月に読書旬間があった。その際、好きな本について語るということをやってみ

	てはどうかと提案した。「本を語る会」と硬くなってしまい、浸透はこれからだと思うが、異年齢が集まり本の話をして、本棚に行って自分の好きな本を紹介することをとても楽しんでいた。そこから貸出が伸び、伝えていくことが本当に大事だと感じた。
会　　長	今、中学校の生徒の図書館利用について話があった。貸出の実績はどうか。
委　員　B	ここ 4 年、年々貸出数は増えている。11 月時点で、300 冊ほど昨年度より増えた。生徒数が減っているが、貸出数は増えているので、そんなに離れている感じはない。紹介するとある程度の子は興味を持ってくれる感触はある。ただ、ものすごく差があり、本を読まない子は読まない。小学校と違い図書館の時間がないので、自主的に来ないといけない。1 ヶ月に 1 回でもクラスで図書館に来る機会があればいいと思う。中学校は忙しいので、無理強いはできない。
会　　長	先ほど、「えほんのへや」の参加者が減っているという話があった。 保育園の現場から何かあるか。
委　員　C	11 月に来年度の入園の申込状況が出たが、やはり未満児の入園が多い。平日の昼間に親子で、というのは難しい。2 歳児クラスが 2 回「えほんのへや」に参加して、楽しんでいる様子だった。以前も話を出したが、保育園に読みきかせに来てもらえるともう少し小さい子も参加できると思う。参加日と絡めたり。「えほんのへや」とは変わってしまうが、ボランティアの方々が学んだことを発表する場が少ないのであれば、親子で集まる機会に来ていただいて一緒に楽しんでもらえるのではないか。チラシ等の掲示もできるが、すぐに状況が変わるのは難しい。
会　　長	来年は戦後 80 年の節目を迎える。 被団協がノーベル平和賞を受賞し、授賞式に高校生の代表も参加していた。高校生が描いた原爆の絵、被爆者の方たちに聞き描きをしたという情報を見て非常に感銘を受けた。広島県の基町高校では、長年にわたり学校と生徒の行事として重要な行事の位置づけで、この学校の生徒も代表で参加したというニュースも見た。 これから戦争を語る、直接戦争を体験した人がいなくなる。そんな中で、若い人が平和について語るような機会がほしい。ぜひ検討してほしい。 課題も多いが、協議会の委員としても協力させていただきながら、よりよい図書館にしていきたい。 以上で協議を終わります。

閉　　会